

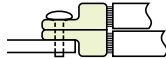
## 線押え方式端子(圧着端子兼用)の接続方法

1. 電線を直接接続する場合は、電線をまっすぐさし込み適正なトルクで締め付けてください。
2. より線の場合は、電線が片方に寄らないように振り分けて接続してください。



## ブレーカへの圧着端子の接続

1. 2個接続の場合
  - ① 上下背あわせに接続してください。
  - ② 圧着端子の大きさがちがう場合は、大きい方を下側に接続してください。
  - ③ 下側の圧着端子は14mm<sup>2</sup>以上の取付可能なものを使用してください。



## ブレーカへの2本の電線の接続

### 1. ソルダレス端子方式の場合

安全ブレーカタイプにやむを得ず電線を2本接続する場合は、φ1.6とφ1.6または、φ2とφ2の組み合わせ以外の複数電線接続は避けてください。

(端子への接続方式一覧は、C-26、C-27ページ参照)

■B-1EA、B-2EA、GB-1ZA、GB-2ZA、GB-2EA、GBU-3・1EA、GBU-3・1HEA等

### 2. 線押え方式(圧着端子兼用)の場合

B-53EC等の線押え端子を持つ器種に電線を2本接続する場合は、同一サイズの電線で接続してください。その際、心線を振り分けずに直接接続してください。

異径電線の組み合わせで接続する場合は、圧着端子をご使用ください。



## 標準使用条件

遮断器は次の標準使用条件で使用されるものとする。

JIS C 8201-2-1、JIS C 8211  
JIS C 8201-2-2、JIS C 8221  
JIS C 8222

■周囲温度 -5～40℃の範囲内。ただし24時間の平均値は35℃を超えないこと。

■標高

取付場所の標高は、2000mを超えない。

■湿度

相対湿度は、最高温度40℃で85%を超えてはならず、結露のないこと。

(注)温度補正曲線はさらに広い温度まで示していますが、その環境での長期使用を保証するものではありません。

## 漏電遮断器などの施設場所

内線規程 1375-3

漏電遮断器などは、容易に点検できる場所に施設すること。

(機械器具に内蔵される場合を除く)

次の各号のいずれかに該当する場所に施設しないこと。

- ① 高温の場所
- ② 湿気の多い場所
- ③ 水気のある場所
- ④ 特に振動の著しい場所

## 遮断器の接続

遮断器の接続は、「電源側」「負荷側」の表示どおり正しく接続してください(正接続)。「電源側」「負荷側」を逆に接続した場合(逆接続)、遮断性能が低下するおそれがありますので避けてください。また、漏電遮断器などの内部にトリップコイルを装備しているも

のは、動作した場合、トリップコイルに通電され続けるため、トリップコイルが焼損するおそれがありますので、必ず「電源側」「負荷側」の表示にしたがって接続してください。各器種の逆接続可否は、器種一覧表の項目を参照ください。